

Media Release

後藤友香 & 古泉智浩

人生謳歌

2人展(絵画)

2012年4月21日～5月27日

画家/漫画家として活動する後藤友香と漫画家及び自主映画制作者として知られる古泉智浩の2人展では、「人生謳歌」をモチーフにそれぞれの新作絵画作品を発表いたします。

後藤友香



1978年、東京生まれ。武蔵野美術大学油絵科を2002年に卒業。
2000年に「マンホールの謎」でアックス・マンガ新人賞・南伸坊賞を受賞、2002年に第125回ザ・チョイスに入選。2002年より個展が開かれる。

吉祥寺バサラブックスのシャッターワーク制作や「日米ヘタうま & アンダーグラウンド・サミット展」、コロンビアコーヒー「バカップ」展、Cow Parade プロジェクト、EPOS CARDプロジェクトなど、多数のプロジェクトにも参加、出品している。また、ダブルオーラ・テレサのアルバムジャケット画「こちらロックンロール天国」、及びプロモーションビデオのアニメーション画を2006年に手がけた。翌年には、podoのファーストアルバム「ガール＆ルール」のプロモーションビデオ・アニメーション画も手がけている。

2007年には、ニューヨークを拠点に活動するアーティスト河井美咲さんとニューヨークで共にZINEを制作、発表(MIX JUICE/2007年、虹色交差点/2008年)している。

現在、アックス(青林工藝舎)で「宇宙少女アニタ」を連載している。著作に「正義隊1」「正義隊2」「正義隊3」「正義隊4」(青林工藝舎刊行)、「鉄道画集」(よるひるプロ)がある。

ヒロマート・ギャラリーでの初めての後藤友香個展「Planet Sounds」は、2011年6月に開かれた。

また、武蔵野美術大学油絵科主催による「後藤友香」展が今年6月10日より開催される。(詳しくは下記ご参照下さい)

Artist Statement: 「人生謳歌」に向けて

人生には一瞬一瞬にキラキラするような恵みがある。
それは鳥のさえずりを聴いた時や、喉が渴いて水を飲んだ時や
パールのマニキュアがきれいに塗れた時に訪れる。
驚きや喜びや楽しさや苦しさや人間の感情のすべてが人生に
豊かさを与えてくれる。耳をすませば、色とりどりの音楽が聴こえてくる。
人それぞれの心を励ます歌を描きたい。

後藤友香



「ときめき」



「対話」



「水やり」

NEWS!

武蔵野美術大学主催の「後藤友香展」が開催されます。

「後藤友香展」 2012年5月10日(木)～6月10日(日) 平日10:00～18:00 土10:00～17:00

*日祝休、ただしオープンキャンパスのため6月9日(土)は10:00～18:00、10日(日)は10:00～17:00開廊。

ギャラリートーク: 5月10日(木)17:10より

会場:FAL(武蔵野美術大学2号館1階)

主催:武蔵野美術大学 油絵研究室 共催:武蔵野美術大学 美術館・図書館

hiromart gallery tokyo

<http://hiromartgallery.com>

〒112-0014 東京都文京区関口1丁目30-7 三村ビル1階

Tel. 03-6233-9836

Email: info@hiromartgallery.com

Media Release

後藤友香 & 古泉智浩

人生謳歌

2人展(絵画)

2012年4月21日～5月27日

古泉智浩



1969年、新潟生まれ。専修大学文学部心理学科を卒業、大学の美術研究所にて油彩を学ぶ。1993年に講談社ヤングマガジンちばてつや賞大賞を受賞しマンガ家としてデビューする。同年、バンド活動を開始し、2002年まで毎年海外公演(台湾、イギリス、香港)が行われた。イベント「Japan 2001」にバンドツアーで招聘された際には、市立ブライトン・ミュージアム・アンド・ギャラリー(イギリス)で、ドローイング教室を開催した。また、現在も活動を続けている自主映画制作は、2000年より始めている。代表作のマンガ「青春☆金属バット」(2005年)、「ライフ・イズ・デッド」(2012年)、「渚のマーメイド」(2012年)は、映画化されている。「渚のマーメイド」では、シナリオを城定秀夫監督と共に手がけた。

現在、ACKS(青林工藝舎)などでマンガの連載を持つほか、2011年秋より池袋コミュニティカレッジで月2回マンガ教室の講師を勤めている。

本展覧会、2人展「人生謳歌」は、彼にとって初めての絵画作品展となる。

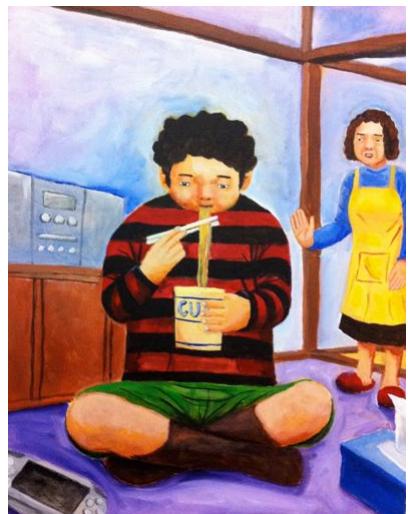
Artist Statement: 「人生謳歌」に向けて

世間は厳しい。立派なことを成し遂げない人生があつてもいいではないか。誰もが立派なことをなしとげることなどそもそも不可能である。結婚もせず子供も作らず、まともな労働もせず、ただ消費生活を享受し、孤独に死ぬ。そんな人生を認めない人もいるかもしれないがそういう人に私は絵を通して伝えたい。「お前は一体何様なのだ?」と。

古泉智浩



「青いギターをひく男」



「カップラーメンを食べる男」